

訂正後全文

平成26年4月25日
健康増進課 感染症・新型インフルエンザ
対策推進担当
担当者 吉村、大木
内線 1832、1836 直通 0952-25-7075
E-mail: kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp

腸管出血性大腸菌感染症の集団発生がありました

4月23日（水曜日）、伊万里市内の医療機関から腸管出血性大腸菌感染症（O157）患者の届出が伊万里保健福祉事務所にありました。

同事務所の調査の結果、届出患者の他に、届出患者が通園している伊万里市内の保育所の園児・職員11名から腸管出血性大腸菌（O157）が検出されました。

現在、同事務所が感染経路等に関する調査を行っています。

この時期は、例年、腸管出血性大腸菌感染症が増加傾向となります。腸管出血性大腸菌は、二次感染（感染者から他の人へ感染すること）や汚染された食品などで感染しますので、別添を参考に感染予防を心がけてください。

記

1 届出患者の状況

4月22日（火曜日）頃から腹痛、水様性下痢があり、同日、受診。
検査の結果、4月23日（水曜日）にO157の感染が判明しました。
患者は服薬治療中で、快方に向かっています。

2 接触者調査の状況

①届出患者家族

4月23日（水曜日）、感染予防対策について指導し、家族5名の検査を実施、現在検査中です。

②保育所

4月23日（水曜日）から調査・指導を開始し、4月24日（木曜日）に園児、職員を検査したところ、4月25日（金曜日）に、11名のO157の感染が確認されました。

うち8名は、現在症状がなく、※無症状病原体保有者と考えられます。
なお、感染が確認された11名以外は現在、検査中です。

現時点での患者の状況は、以下のとおりです。

	年齢	性別	届出年月日	備考
①届出患者	4歳	男	H26. 4. 23	伊万里市在住 発症日：4月22日 症状：腹痛・水様下痢
②患者	5歳	男	H26. 4. 25	伊万里市在住 発症日：4月15日 症状：下痢
③患者	4歳	女	H26. 4. 25	伊万里市在住 発症日：4月19日 症状：腹痛・下痢
④患者	5歳	女	H26. 4. 25	伊万里市在住 発症日：4月21日 症状：軟便

この他に、※無症状病原体保有者が8名（男4名、女4名：3歳～50歳）確認されています。
※無症状病原体保有者：症状はないものの検便により感染が確認された方です。

3 対応

- ・O157患者等11名については、医療機関への受診を勧奨しました。
- ・患者等の家族の健康調査及び検便を実施し、患者宅の消毒及び手洗い等の感染予防対策について指導しています。
- ・患者が通園する保育所のトイレなど施設の消毒及び手洗い等の感染拡大防止対策について指導しました。

4 県内の腸管出血性大腸菌感染症の発生件数（平成26年4月25日現在）

年		O157	O26	O111	O121	その他	合計
21	件数	22	4	1	0	3	30
	感染者数	38	146	1	0	3	188
22	件数	24	1	0	2	6	33
	感染者数	35	1	0	2	16	54
23	件数	13	2	0	0	4	19
	感染者数	22	2	0	0	5	29
24	件数	8	4	1	2	4	19
	感染者数	18	35	4	2	19	78
25	件数	15	0	1	4	5	25
	感染者数	52	0	3	9	5	69
26	件数	※2	1	0	0	1	※4
	感染者数	※13	2	0	0	1	※16

※今回の事例含む。 (単位：件、人)

※昨年のプレスリリース事例（家族以外での複数感染事例）

O157 3例、O121 1例

《腸管出血性大腸菌感染症について》

腸管出血性大腸菌O157、O26、O111などは、ベロ毒素という強い毒素を出し、腸管を傷つけます。その結果、腹痛や水様性下痢、嘔吐、血便などの症状が出ます。特に、乳幼児や高齢者は、脱水症状を起こしやすく、溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重篤な症状を引き起こす可能性がありますので注意してください。

また、二次感染（感染者から他の人に感染すること）しやすい病原菌ですので手洗いを十分にしましょう。

◆腸管出血性大腸菌は、食品等についた少量の菌で感染するため、食品等の取り扱いには注意しましょう。

- ・手をよく洗う。
- ・まな板、包丁、布巾などの調理器具は台所用洗剤でよく洗い、定期的に熱湯をかけて消毒しましょう。
- ・食材、食品は、冷蔵庫で保管し、新鮮なうちに食べましょう。
- ・中心温度が75度、1分間以上を目安として十分加熱しましょう。
- ・特に、乳幼児や高齢者は、抵抗力が弱いので、生ものや生焼けの食品は食べないようにしましょう。

◆気になる症状があったら、医師の診察を受けましょう。

- ・主な症状は、腹痛、水様性下痢、嘔吐、血便などです。
- ・適切な抗生物質等の治療で早期に回復する病気です。
- ・くれぐれも自己判断で市販の下痢止めなどを飲まないでください。自己判断による服薬等で重症化をまねくことがあります。

◆下痢症状のある人や周囲に下痢症状のある人がいる場合は、石けんで念入りに手を洗いましょう。